

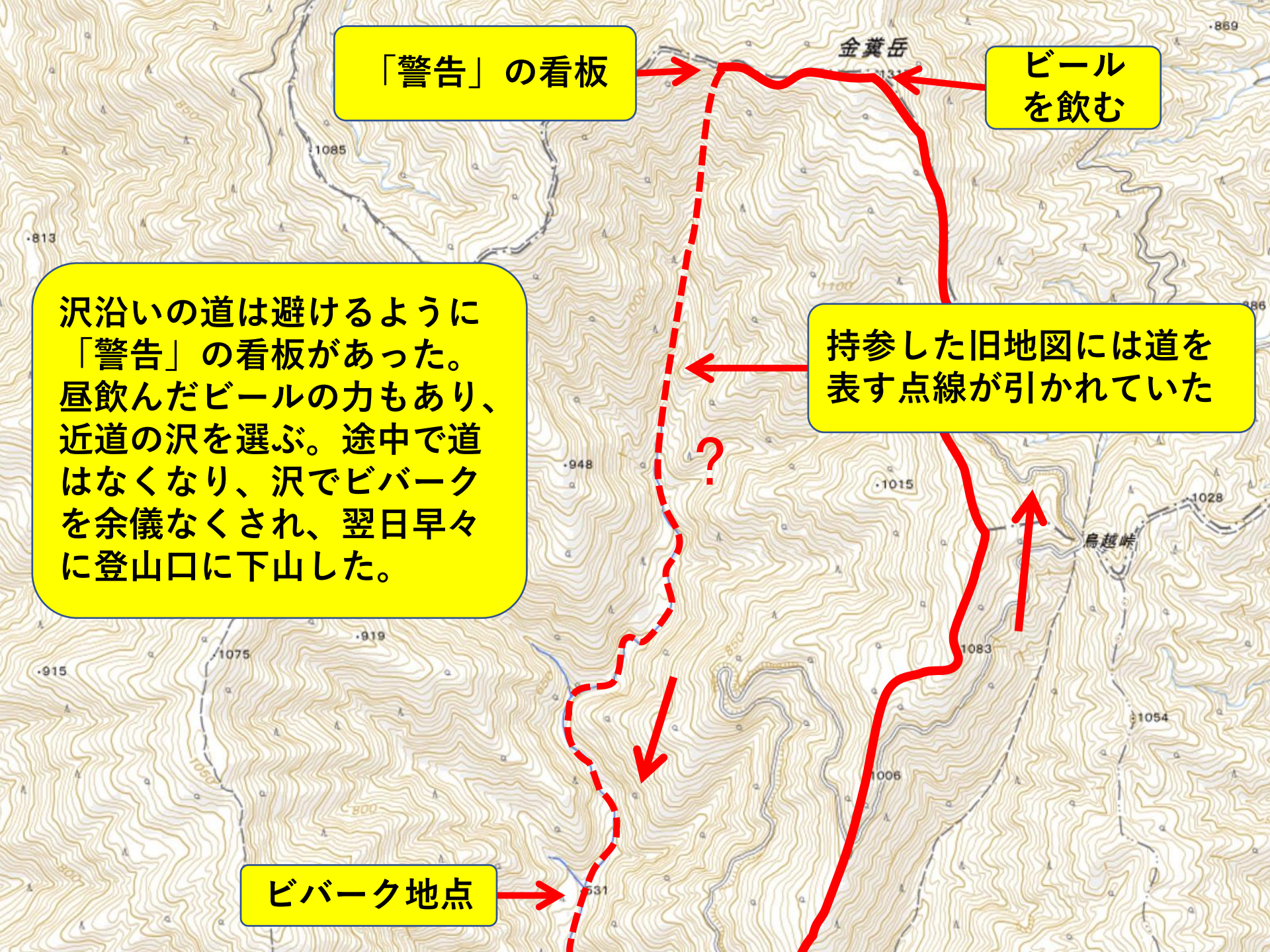
「警告」の看板

ビール
を飲む

沢沿いの道は避けるように「警告」の看板があった。昼飲んだビールのおかげもあり、近道の沢を選ぶ。途中で道はなくなり、沢でビバークを余儀なくされ、翌日早々に登山口に下山した。

持参した旧地図には道を表す点線が引かれていた

ビバーク地点



二人での登山。地図を持参したが、古い地図だった。GPSを持っていたため、現在位置は確認できたが、ヘッドライトは持っていない。昼に飲んだビールが気持ちを大きくし、「警告」の看板を無視し、沢沿いの近道を選択する。道の分岐での決断は午後2時ごろと思われる。普通なら距離的にも問題無いのだが、「警告」の看板は嘘をつかない。沢の途中で、藪こぎになり暗くなった。午後7時30分に「ビバーク」を決断する。ツェルトや防寒着等は持っていなかったため、一晩寒い思いをした。翌日、午前6時に登山口まで戻ることができた。

正確には「道迷い」ではなく、昔、道であったところが廃道になり藪になったところを下ったのである。問題は「警告」の看板を無視した判断である。昼に飲んだビールが影響していると思われる。また、ヘッドライト・防寒着・ツェルト等の必要装備を持参していないので、最低限の必要装備は持たないといけない。

「①地図は最新のものを持参（国土地理院のHPで事前にコースを確認）②行動中の飲酒③必要装備の持参」の大切さを教えてくれた。